

平成 23 年度 海外研修報告書

日本リハビリテーション医学会 国際委員会

委員長 志波 直人

海外研修担当委員 花山 耕三, 青木 隆明

平成 23 年度日本リハビリテーション医学会海外研修助成による研修が終了したので、下記の通り報告する。

記

梶間 剛 (東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座)

参加会議名: BrainPET 2011-XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function and the Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET, The 3rd Pan Pacific Symposium on Stem Cells Research

開催地: Barcelona, Spain

参加期間: 平成 23 年 5 月 24 日～ 28 日

発表演題名: Cerebral blood flow changes in the non-dominant language areas after aphasic stroke are directly affected by dominant hemispheric damage

発表の成果: SPECT 統計画像解析を用いた本研究によって、慢性期脳卒中による失語症例ではいくつかの劣位半球言語野の局所脳血流量変動が、優位半球言語野の脳損傷の程度に直接的に影響されていることを示し、同時に、左右の言語関連領域が半球間でもつ神経連絡のイメージを示した。この知見を経頭蓋磁気刺激法などの半球間神経連絡への介入手技に応用し、新たな治療法を開発する可能性などについて、多くの研究者と討論する機会を得た。本発表は、脳損傷の後遺障害評価に統計画像解析を用いる手法を普及する一助になった。

沢田 光思郎 (鶴飼リハビリテーション病院)

参加会議名: 6th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine

開催地: San Juan, Puerto Rico

参加期間: 平成 23 年 6 月 12 日～ 16 日

発表演題名: Muscle strength and gait function in polio survivors

発表の成果: 藤田保健衛生大学リハビリテーション部門で行っているポストポリオ対策プロジェクト (BGraS Project) の検証結果より、ポリオ経験者の筋力と歩行状態について発表を行った。英語によるプレゼンテーションの貴重な機会をいただいたとともに、発表後のフロアにおいて AAPM&R の Vice President である Dr. Alberto Esquenazi (MD, 現 Moss Rehab) とポストポリオについてディスカッションさせていただいたことは、ISPRM 2011 の参加した中で最も意義深いことであった。

新藤 恵一郎（済生会神奈川県病院リハビリテーション科）

訪問研修施設：Institute of Neuroscience, Newcastle University

所在地：Newcastle upon Tyne, NE 1 7 RU, United Kingdom

訪問期間：平成 23 年 10 月 10 日～12 日

訪問研修の成果：サルを対象とした、侵襲的な手法による Brain Machine Interface (BMI) を見学した。神経活動を直接記録することによって、ヒトでは得ることが困難な、運動学習の過程を生理学的に解明しようと取り組んでおり、非常に興味深い研究であった。また、“Challenges to restore hemiparetic upper limb after stroke” という題名で、Department Seminar を行った。脳卒中患者における BMI ニューロフィードバック訓練の効果およびメカニズムについて活発な議論をし、今後、さらに臨床応用していくための手掛かりが得られた。

岡崎 英人（藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅱ講座）

訪問研修施設：Johns Hopkins University

所在地：Baltimore, USA

訪問期間：平成 23 年 10 月 17 日～21 日

訪問研修の成果：Johns Hopkins University の Palmer 教授を訪問し病院見学、QOL や摂食嚥下リハビリテーションについてディスカッションを行った。米国の医療システムや先端の研究に触れることができ非常に有意義な研修であった。

*海外研修印象記はリハニュース 53（2012 年 4 月 15 日発行）号に掲載予定です。